

- 日 時：2019年8月18日（日）
- 場 所：立川教会
- 説教題：「善をもって悪に勝ちなさい」
- 聖 書：旧約 出エジプト記 22：20-26（p131）
新約 ローマの信徒への手紙 12：9-21（p292）
- 讃美歌：377「神はわが砦」、449「千歳の岩よ」

お早うございます。

台風一過、フェーン現象が起こり、猛烈な暑さが日本列島を襲っています。

東京でも、昨日は37度・・・、異常です。

35度以上を猛暑日と呼ぶなら、37度、38度、あるいは40度を表わすのに適切な言葉は何かと考えてしまいます。猛暑では足りないように思います。

しかし、その猛暑の中を、昨日は「懐かしい歌を歌う集い」と中国語礼拝が行われました。

歌の集いでは、暑さの中を8人の方がお見えになり、楽しく又懐しいひと時を過ごしました。中国語礼拝は、張さん一家が中国に帰省中のため、日本人だけの礼拝になりましたが、初めて参加された方、他宗教の方が3人も出席し、入江玲子さんの通訳で行われました。

猛暑が続く中でも、夜になると秋の虫の声が聞こえて来ます。

夏も、もうしばらくしたら終わるのでしょうか？

さて、今日の説教題は「善をもって悪に勝ちなさい」です。

私たちが日々生きている中で、最も難しい人間関係を正面から問いかける言葉です。

今日は、しばし、パウロのこの言葉から学びを深めたいと思います。

まず、私たちはこの言葉から、幾つものイエス様が語られた言葉を思い起こします。その中でも、「善をもって悪に勝ちなさい」に関連する最も重要な言葉は、「あなたの敵を愛しなさい」ではないかと思えます。イエス様が語られたこの箇所を読んでみます。新共同訳聖書8頁、マタイによる福音書第5章43節から48節です。

43：あなたがたも聞いておるとおり、「隣人を愛し、敵を憎め」と命じられている。

44：しかし、わたしは言うておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。

45：あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである。

46：自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたにどんな報いがあるろうか。徴税人でも、同じことをしているではないか。

47：自分の兄弟にだけ挨拶したところで、どんな優れたことをしたことになるろうか。異邦人でさえ、同じことをしているではないか。

48：だから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者とな

りなさい。

敵を愛する。

敵、即ち自分を認めず、否定し、攻撃して来る者に対し、反撃するのではなく、その敵を愛しなさいと言うのです。

愛するとは、何よりもその存在を価値ある者として愛おしみ、喜んで受け入れることです。自分を否定し攻撃する者に対し、その者を大切な価値ある者として愛おしく思い、受け入れる・・・。そんな事が出来るでしょうか。

自分に出来るか出来ないかは、これまで歩んで来た人生を振り返れば良いと思います。

私自身の歩みを振り返ります。

小中高大学時代、“敵”と意識した人はほとんど思い当たりません。“敵”、即ち私と言う存在を否定する者とは出会いませんでした。そのような意味では、幸せな学生時代であったと言えるかも知れません。

次に、中学校教員として過ごした31年間を振り返ります。

A区での15年間、考え方の違う人はいましたが、ここでも私と言う存在を否定し、攻撃して来る“敵”と思える人には出会いませんでした。

しかし、B区での16年間は違いました。一人Cさんと言う人がいました。

彼なら、あるいは“敵”と呼んでも良いかも知れません。

単に考え方が違うと言うものではありません。

彼の思い通りにならないと、誰彼構わず攻撃し始めるのです。

その攻撃は、大人気ないとしか言いようがありませんでした。

挨拶をしても、挨拶を返さない、つまり無視するのです。

31年間の教員生活で、4つの学校を経験し、数百人の同僚・職員・生徒・保護者との出会いがありましたが、挨拶をしても返さなかったのは彼一人だけでした。

それでも、私は、朝彼に会うと声をかけました。

忍耐強く声をかけ続けました。

でも、遂に年度の半ば過ぎから、声をかけなくなりました。

彼に対する私なりの配慮が、彼には何の意味も持たないと思ったからです。

彼との関わりで言うならば、“敵”とは、関係を拒絶する者、あるいは、関係があっても、敵意の中にしか関係を築けない者と言えるかも知れません。

そのような相手を愛せよとイエス様は言います。

そのような相手の悪意に善意をもって応え、その悪意を克服しなさいと言うのです。

至難の業です。

不可能と言って良いと思います。

無視されるだけならまだしも、自分を非難し、攻撃して来る存在を受け入れることなど出

来ない話しです。攻撃をそのままにし、反撃しなければ、相手は、ますます増長し、その攻撃はエスカレートすると思うからです。

これが、私たちの現実ではないでしょうか。

にもかかわらず、このような現実のただ中において、使徒パウロは、普通では考えられないことを言います。「善をもって悪に勝ちなさい」と。自分の善なる心によって、自分を非難し、攻撃する側の悪なる心に打ち勝ちなさいと言うのです。

イエス様のあなたの敵を愛しなさいと言う言葉にしても、パウロの善をもって悪に勝ちなさいと言う言葉にしても、普通の生き方では考えられない言葉です。

しかし、実は、常識とはかけ離れたこの言葉の中にこそ、キリスト教の教えがあり、信仰が試されるのです。それは、自分は神様によって造られた被造物であること、神様は自分を創造し、命を与えて下さった創造主であることを、信じる事が出来るかとの問いかけでもあります。つまり、神様は、この私と言う存在を、愛し、認め、受け入れ、そのままが良いと言って下さっている事実を信じているかと言うことです。その事実を立てて生きていくかとの問いかけなのです。

被造物である人間同士の関係、自分と相手との関係がいかに破綻していても、憎み合い、攻撃し合い、否定し合う関係であっても、己の視線を相手から神様に向けた時、私たちは神様によって自分がどれほど愛され、守られ、祝福された存在であるかを知らされます。そして、私たちは破綻したその関わりから引き上げられ、新たな思いの中に、新しい関係を築く道を歩む力が与えられるのです。

幼かった時、子ども同士の争いで傷ついた時、親に自分が抱かれることによって、その傷が癒された事を私たちは経験しています。たとえ一人でも、自分の存在を全的に肯定する者がいれば、私たちはどのような現実にも身を置こうとも傷は癒され、生きることが出来ます。さらに、自分を受け入れ、それで良いと言って下さるお方が神様であることを知った時、私たちは、この世に生きつつ、神の国の眼差しをもって進むことが出来ます。その時にこそ、今日のパウロの言葉が自分の現実となり、イエス様の言葉も又自分の現実となります。

愛されること、受け入れられること、それは生きる力です。

それと同時に、人の心は移ろいやすいことを私たちは知っています。

しかし、神様の愛は、いついかなる時にあっても、変わることはありません。

神様に私は愛されている。神様に私は受け入れられている。神様は、そのままが良いと言って下さっている。

そのような神様を私たちは知っており、日々歩んでいます。

善をもって悪に勝つ者となろうではありませんか。そして敵をも愛せる者となろうではありませんか。

私たちは、神様によって、すでに愛され、受け入れられているのですから。

祈りましょう。

